日本地球電気磁気学会会報（第７８号）

１９７８年6月２６日

日 本 地 球 電 気 磁 気 学 会
連絡先　東京都文京区弥生２－１１－１６（〒１１３）
東京大学理学部地球物理学教室内
電話　０３－８１２－２１１１（内線６４７６）

Ⅰ　第６４回総会ならびに講演会の開催について

秋の学会は東北大学理学部のお世話により仙台で開催されます。

1. 期　間　　昭和５３年１０月１７日（火）～２０日（金）
2. 会　場　　東北大学松下会館
3. 講演申込みおよび予稿集原稿送り先（ポスターセッション以外，ポスターセッションについてはⅡを参照のこと）

〒１１３　東京都文京区弥生２－１１－１６
東京大学理学部地球物理学教室内
日 本 地 球 電 気 磁 気 学 会　　宛

締切り　８月３１日（木）　（必着）

予稿集原稿は，同封の規定用紙に**黒インクまたは黒ボールペン**で丁寧にお書き下さい。用紙が更に必要な場合には下記運営委員のところにとりにいくか，又は学会事務所あて直接ご請求下さい。

東北大学理学部地球物理学教室　大　家　　寛
京都大学理学部地球物理学教室　荒　木　　徹
九州大学理学部物理学教室　北　村　泰　一

4. 田中館賞候補者推薦および総会議題の申込みは，９月１６（土）までに学会委員長宛に書面でご提出下さい。

送り先　〒６０６　京都市左京区北白川追分町
京都大学理学部地球物理学教室　　前　田　　坦

5. 締切り日を厳守して下さい。９月１日以降に到着した申込みは自動的に却下します。電話による申込みや遅延依頼は受付けません。

6. 総会で議論されたように，現行の４日間２会場制では，全講演を受付けることが困難になろうとしています。この講演会では講演申込みを制限することはしませんが，全体の限られた時間の中で自分の研究内容を聞いてもらうのだとの見地から，登壇回数をできるだけ１人１回にして下さるようご協力をお願いします。

7. 新しい試みとして，ポスターセッションを開設します。これについてはⅡをごらん下さい。

Ⅱ　ポスターセッション

１０月１７日～２０日に開催される秋期地球電気磁気学会では，ポスターセッションを開くことが予定されています。要領は，下記の通りですが，ふるってご参加下さい。

● ポスターセッションの意義

簡単に入手できる範囲のデータを表にすると下記の通りとなります。

学　　会	会場数	講演数	期間	講演数／日
２９回（１９６１年春）	1	７０	３日	２３.３
３９回（１９６６年春）	1	１２９	４日	３２.０
４１回（１９６７年春）	2	１３７	４日	１７.１
６３回（１９７８年春）	2	２２７	４日	２８.５

学会発表は，第４０回で一つの転期を迎え，その後，二会場制をとっていますが，すでに過飽和状態となり，関連の深い多くの講演を聞きのがしています。また，これから数の上の延びは遅くなるとしても，早晩，三会場制も議論にのぼってきます。そこで，今後学会発表の最も有効な形はなにかということを考えなくてはならない時期に達しました。すでに太平洋の対岸では，この問題に対してポスターセッションを取り入れる方向のようですが，内容を明確に伝えるには，優れた方法と考えられ，当電気磁気学会でも，まず仙台の学会より試行的に開催することになりました。

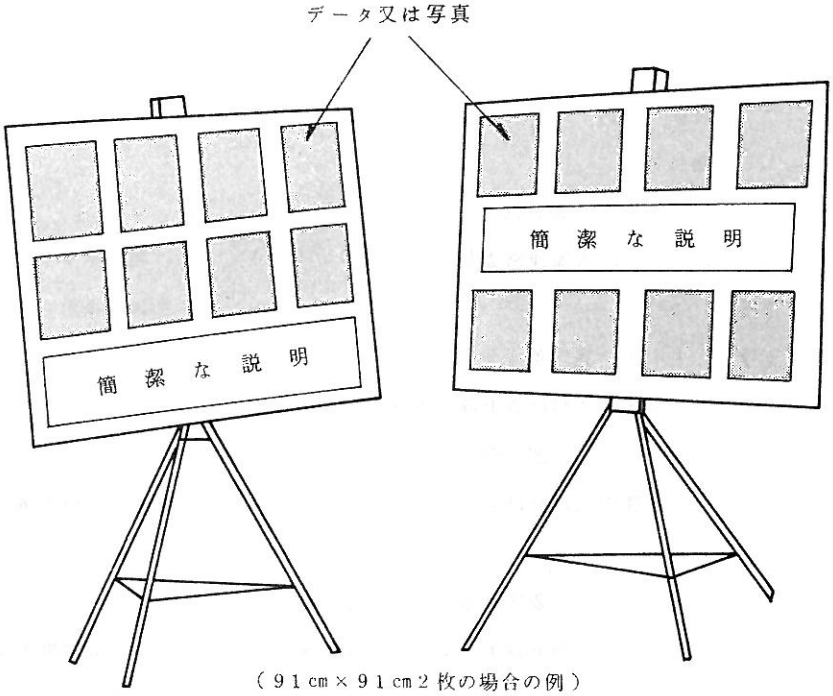
● 方　法

a）申込　通常の学会講演と同様アブストラクトを書いて申し込みをいたします。

b）発表　通常の講演と同じく登壇し，５分間で簡潔に概要を発表いたします。その後定められた時間（２～３時間）ポスターセッション会場で資料（ポスター）を用いて集会者に対して説明を行います。定められた時間以外は，資料を展示しておいても収納しても自由です。

c）ポスターの製作

イーゼル二台（あるいは一台）にボード（イーゼル二台の場合は９１cm×９１cmを二枚，イーゼル一台の場合は１８２cm×９１cmを一枚）全面にディスプレーします。Ｂ４あるいは Ａ４版の写真等を用いると１０～１２枚貼ることができます。



（９１cm×９１cm２枚の場合の例）

イーゼルとボードは，会場側で用意いたします。したがって，発表者は必要資料（ボードに貼る写真及びデータと簡単な説明等必要と思われるもの）のみ持参し，発表当日までに各位の趣向にしたがってディスプレーしていただきます。

● 申込期日等

申込締切：　８月２６（土）

申 込 先：　仙台市荒巻字青葉

東北大学理学部地球物理学教室

大　家　　寛

申込書類：　通常の講演申込用紙に予稿とともにお送り下さい。ただし，申込用紙，予稿原稿とも，右肩上に鉛筆でポスターセッションと明記して下さい。

Ⅲ　第６３回総会ならびに講演会

第６３回総会ならびに講演会は，東大理学部のお世話により，５月１６日（火）～１９日(金)の４日間，東大農学部と地震研究所で開かれました。１８日午後には，行武運営委員の司会により，特別講演，「計算機による数式処理」（佐々木建昭氏：理化学研究所），「大気の起源と進化－希ガスの惑星科学」（小嶋稔氏：東大理学部）が行われ，その後，下記の次第で総会が開かれました。

(1)　開会の辞（河野運営委員）

(2)　議長選出（恩藤会員）

(3)　大会委員長挨拶（小嶋大会委員長）

(4)　運営委員会報告（河野，大家運営委員）　（後出Ⅴ参照）

(5)　田中館賞授与

第７５号　　丸　橋　克　英　会員

「高緯度における上部電離圏の構造と運動の研究」

第７６号　　兼　岡　一　郎　会員

「地球内部における希ガス同位体比組成とその地球物理学的意義」

(6)　田中館賞審査報告

前田委員長から下記のような要旨の報告がありました。

「丸橋克英会員の研究は，地上および衛星データの解析にもとづいて，高緯度の上部電離圏に特徴的なpolar peakとionospheric trough 両現像の性質を世界に先がけて明らかにし，また電離圏プラズマの運動を理論的にしらべ，H^+ の流出理論を改善して現象の究明に貢献した。兼岡一郎会員の研究は，K－Ar，$^{39}Ar-^{40}Ar$ 法を用いて地磁気試料，海洋底地殻や，やまと隕石等をしらべ，これらの生成年代や生成過程について様々な知見を得た。更に地球内部における希ガス元素組成およびその同位体比組成をしらべ，始源^{36}Ar の存在を見出し，また岩石生成の深さについても考察した。」

(7)　長谷川記念杯贈呈

当学会と地球電磁気学の発展に対する大林辰蔵会員の貢献に感謝し，長谷川記念杯を贈呈しました。

(8)　委員長挨拶

前田委員長より概略次のような挨拶がありました。

「現在進行中のＩＭＳ事業の推進には大林会員の努力に負うところが大きい。そろそろ観測結果も出はじめているので，関係者の立派な研究を期待しています。この事業のあとはＭＡＰ

計画が予定されていますが，更に太陽系における地球惑星環境の研究への準備が進んでいます。研究活動の活発化に伴い学会での講演数も増加し，その対処に苦慮していますが，講演結果はなるべく学会誌に投稿して頂きたいと思います。過日行われた学会誌に関するアンケートによると，多くの会員が学会誌の発展を期待しておられるようにみえます。そこで，アンケート結果に基づいて，会員の研究活動を示すのによりふさわしい学会誌をめざして，誌名その他について検討したいと思います。最後に若手研究者の就職が大へん難しいので，会員各位の格別なご協力をお願い致します。」

(9) 議　事

(イ) 昭和５２年度決算

(ロ) 昭和５３年度予算

(ハ) 昭和５４年春の総会および講演会開催地提案

(ニ) そ　の　他

(イ)，(ロ)について佐藤運営委員から説明があり（次項Ⅳ参照），若干の質疑応答の後，運営委員会案を承認しました。

(ハ)については，河野会員より，東大宇宙研にお願いしたいとの提案があり，宇宙研を代表して，平尾会員が引受ける旨の発言をされました。

議事の最後に，運営委員会報告中の「次の講演会については登壇回数制限（１人1回）を行う」件に対し，「こういう事を運営委員会の独断で決めてしまうのはよくない」との意見が出されました。現行の４日間２会場制ではすべての講演をさばききれないとの共通認識のもとに，意見の交換を行い「レフェリー制度をとり入れて講演の質をチェックする」，「３会場制にする」，「講演料をとる」，「登壇回数制限もやむをえない」等の意見が活発に出されました。これらの提案の実施にはかなりの準備が必要なので，さしあたり秋の学会では，厳密な意味での登壇回数制限は行わず，講演をできるだけ一つにまとめるよう会員に呼びかけることになりました。

(10) 謝　辞

参加者を代表して加藤進会員から，今回の総会と講演会をお世話下さった東大理学部の方々に謝辞が述べられました。

(11) 閉会の辞（議長）

Ⅳ　昭和５２年度決算および昭和５３年度予算

昭和５２年度決算

収入		支出	
正会員会費	1,627,500円	業務委託費	757,930円
学生会員会費	137,500	会誌分担金	2,304,400
予稿集売上金	724,000	会誌発送費	179,860
利子収入	159,599	会報等印刷費	150,020
出版助成金	1,810,000	通信郵送費	198,510
前期繰越金	3,655,360	総会費	353,660
		予稿集印刷費	561,050
		会合費	43,500
		雑費	13,320
		次期繰越金	3,551,709
合計	8,113,959	合計	8,113,959

注　繰越金の減少（赤字）：　103,651

昭和５３年度予算

収入		支出	
正会員会費	1,676,000円	業務委託費	780,000円
学生会員会費	132,500	会誌分担金	4,240,000
予稿集売上金	750,000	会誌発送費	200,000
出版助成金	3,690,000	会報等印刷費	150,000
利子収入	150,000	通信郵送費	220,000
前期繰越金	3,551,709	総会費	350,000
		予稿集印刷費	650,000
		会合費	45,000
		会員名簿作成費	400,000
		雑費	10,000
		次期繰越金	2,905,209
合計	9,950,209	合計	9,950,209

注　繰越金の減少（赤字）：　646,500

Ⅴ　運営委員会報告

(1)　学会財政の赤字

前項からわかるように，昨年度決算で１０万余りの赤字をだし，今年度予算では，支出増を極力押えたにもかかわらず，６５万円近くの赤字が見込まれています。他に収入の道がない当学会としては，早晩会費値上げを考えざるを得ません。この点について，会員の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

(2)　科研費特定研究のテーマについて

昨年発足した科研費問題小委員会（会報７６号参照）でＩＭＳ終了後の研究プロジェクトを検討した結果，メインテーマとして「太陽系における地球・惑星の基礎環境」を取り上げ，関係他分野との協力体制をつくってゆくことになりました（別項参照）。

(3)　学術会議地球物理学研究連絡委員会地球電磁気分科会委員候補者の選挙結果

評議員と運営委員合同の選挙の結果，下記９名の会員を候補者として当学会より推薦しました。

前田　坦，上山　弘，大林辰蔵，福島　直，力武常次，長島一男，永田　武，
小嶋　稔，加藤　進

(4)　会員名簿発行

前々回と前回の会報で皆様に提出をお願いした住所録作成用カードが約３００通集まっています。このへんで締め切り，印刷にまわしますので，未提出の方，提出後に変更のあった方は，学会事務所宛，至急ご連絡下さい。

(5)　若手の会への資金援助について

昨年秋の総会で提案のあった若手の会への資金援助問題について運営委員会で議論しました。可否両論がでましたが，「若手の会は，若手が自主的に運営することに意味がある。学会が金を出せばその使途を監視しなければならず自主性を損う可能性がある。」「今の若手の会は，若手全体を代表しているとは言えない。特定グループに金をだすのは好ましくない。」「恒常的に金を出せるほど学会財政に余裕がない。」等の理由により，今回承認された予算に援助資金を計上することはしませんでした。

Ⅵ　特定研究の領域設定について

日本地球電気磁気学会では，かねてより関連学会および学問団体に呼びかけて，特定研究領域を新しく設定するよう推進しておりますが，現在，天文学会と協同で特定研究新領域の設定を申請する準備が進められるようになりました。そこでまず考えられている研究の領域を簡単に報告いたします。なお，特定研究の領域の題は，案として，「太陽系における地球の基礎研究」が考

えられています。

研究班

案として考えられている研究班は，以下の８つです。

1. 惑星系の誕生と太陽系の起源研究班（赤外線天文学，太陽系の起源，Dust，太陽系起源プラズマ）
2. 惑星の起源と進化研究班（惑星の化学組成，惑星大気変遷，太陽系物質 ― 小惑星，彗星，隕石等）
3. 太陽と太陽面現象研究班（恒星物理学，太陽電波，太陽宇宙線，光学観測）
4. 地球・惑星超高層大気研究班（電離圏，惑星大気組成，大気物理学）
5. 地球・惑星磁気圏プラズマ研究班（磁気圏，惑星電波，プラズマ）
6. 地球・惑星内部と物質分布に関する研究班（固体地球 ― 月，惑星）
7. 太陽系空間及び宇宙空間電磁気現象に関する研究班（太陽風，宇宙線，惑星間空間）
8. 太陽及び恒星の終焉と特異性のプラズマ現象研究班（Ｘ線及びγ線観測，パルサープラズマ）

実施計画

地球電気磁気学会運営委員会小委員会側の原案では昭和５３年度中に計画の全貌を作り上げ，学術会議関連研究連絡委員会の支持をお願いした上，昭和５４年度に申請，順調に行った場合，昭和５５年度に実施に入る見通しで進めております。

世話人

なお，地球物理関係の世話人として，地球電気磁気学会特定研究小委員会，大家，小嶋，北村，河島，佐藤，ＳＴＥＣ特定研究小委員会，西田，甲斐，柿沼（敬称略），以上のメンバーで進んでおります。種々ご意見ご教示ございましたらお伝え下さい。

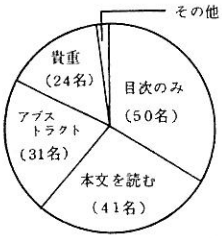
Ⅶ　学会誌（ＪＧＧ）に関するアンケート集約結果

昨年１１月に実施したＪＧＧアンケートの集約結果をＪＧＧ編集委員会に送り意見を求めたところ，「①ＪＧＧの刊行は学会と学会誌刊行センターの協同事業とする現在の形態を続けることが望ましい。②地球物理関係の他学会誌との関係については，今後の情勢推移を見守り，今回は特に措置を考えない。③ＪＧＧの名称変更を考慮する場合はJournal of Earth and Planetary Sciencesが適当と考える」という趣旨の回答を得ました。

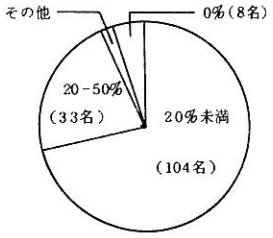
上記③の誌名変更については，その必要性があるとの見地から運営委員会で検討中です。ご意見をお持ちの方は学会事務所宛お寄せ下さい。

以下にアンケート集約結果をまとめておきます。（回答数１４７）

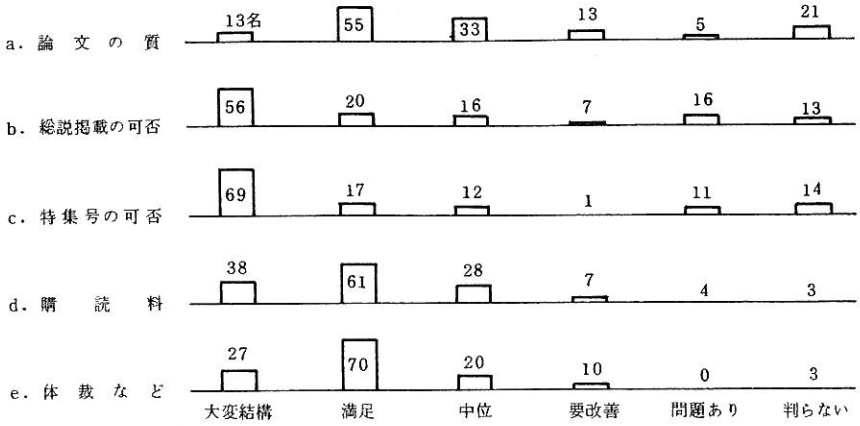
Ｉ－イ）活用度



Ｉ－ロ）興味ある論文の割合



Ｉ－ハ）印　象



Ｉ－ニ）投　稿

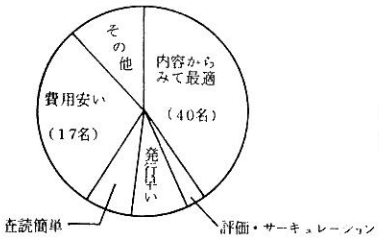
ＪＧＧ投稿経験者　　４１名（２８％）

〃　〃　非経験者　１０５名（７２％）

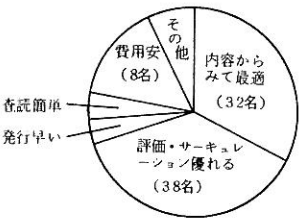
うち　他誌投稿経験者　３５％

適当な論文なし　５１％

投稿誌を選ぶ基準

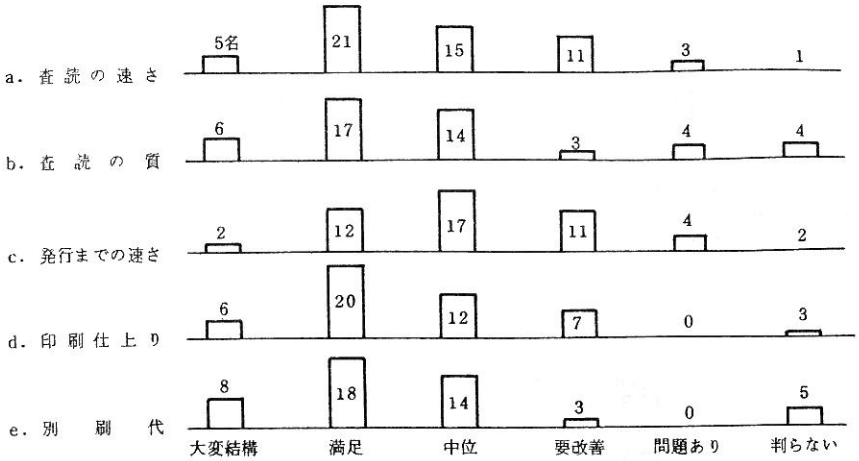


ＪＧＧ（回答者58名）

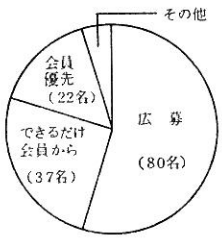


他誌（回答者53名）

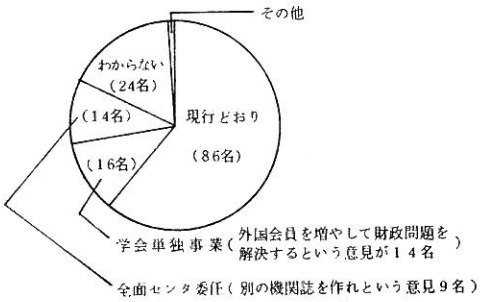
Ⅰ－ホ）ＪＧＧ投稿者の意見



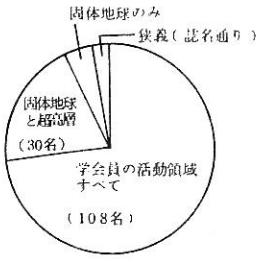
Ⅱ－イ）投稿資格



Ⅱ－ロ）刊行方法

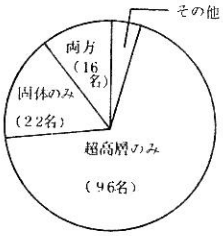


Ⅱ－ハ）カバーする領域

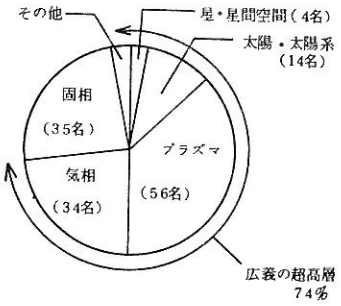


編成（ 号毎に固体と気体を分離 66%
現行の混成号でよい 30%

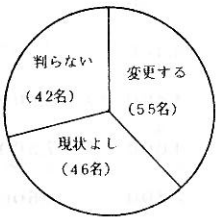
Ⅱ－ニ）固体と超高層に分離した場合の購読希望



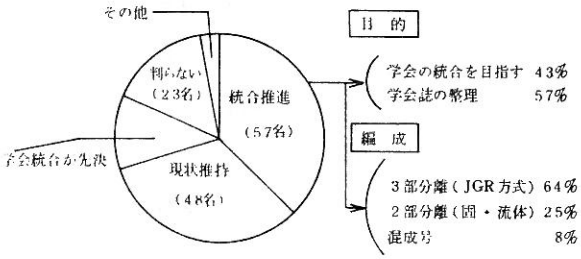
参考　関心ある領域 ⇨



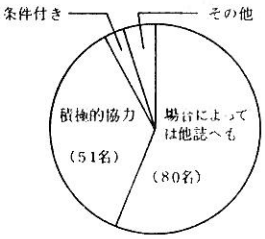
Ⅱ－ホ）名　称



Ⅱ－ヘ）他誌との併合



Ⅱ－ト）協力姿勢



Ⅷ その他

1. 前回会報記載以後の新入会員は次の通りです。（＊印以外は学生会員）

登内正治*（東大海洋研）	高井真夫（九大理）
牧口一男（新潟大理）	井上喜嗣（信大理）
吉富博之（〃）	渡部重十（東北大理）
谷口治幸（東大理）	長谷寧（神大理）
田中基彦（〃）	石沢俊樹（〃）
柴崎和夫（〃）	大島啓嗣（〃）

2. 仙台における学会開催時の宿泊について

学会では宿泊のあっせんをいたしませんので各自直接お申込み下さい。参考のために仙台市内のホテル等の連絡先と設備を下に示します（仙台の市外局番０２２２，郵便番号９８０）。

ホテル名	電話	住所	室数または定員 シングル	室数または定員 ツイン	料金 シングル	料金 ツイン
ニューシティホテル	63-4191	国分町2-14-23	157	0	3,600円より	
仙台ビジネスホテル	61-5711	上杉1-4-25	72	4	3,000より	5,700
グリーンホテル	21-4191	錦町2-5-6	130	90	3,000より	4,500より
ロイヤルホテル	27-6131	中央4-10-11	約110人		3,200より	5,600より
仙台ワシントンホテル	62-1171	大町2-3-1	210	60	4,400	7,480
ホテルリッチ仙台店	62-8811	国分町2-2-2	約300人		4,400より	8,800より
東京第一ホテル仙台店	62-1355	中央2-3-18	約180人		4,000より	7,500より
共済会館	25-5201	錦町1-8-17	105人		2,300	2,600
仙台チサンホテル	62-3211	中央4-8-7	178	48	3,700	6,400
仙台フジホテル	62-8711	一番丁2-8-9	154	33	3,900より	6,800
ホテルメイフラワー仙台	62-5411	本町1-13-28	64	16	4,000	7,300
ホテルサンルート仙台	62-2323	中央4-10-8	約200人		3,950より	7,700より
レインボービジネスホテル	27-1001	連坊小路170	16	6	3,600	6,200より
ホテル赤門	22-4855	川内前丁61	約30人		4,000より	
大橋荘	66-3205	大手町8	約15人		4,800	

3. 日本学術会議第７５回総会報告（日本学術会議広報委員会）

交通ストで延期されていた第７５回総会は，５月１６日～１８日までの３日間，日本学術会議講堂で開かれた。この総会の主目的は，今期の活動計画案を審議し，各種委員会等の構成を行うことであつた。

総会第１日目にまず，沖縄からオブザーバーとして参加された琉球大学山里榮昭，田港朝昭両教授が紹介された。次いで会長から前総会以後の経過報告が次の５項目について行われた：１）前会長からの引継事項，２）国内主要事項，３）国際学術交流，４）要望・声明等，５）その他。続いて科学技術会議関係報告及び日本学術振興会小委員会報告が行われた。

次に名取副会長から，財務委員会報告として，昭和５３年度国際会議代表派遣旅費及び委員等旅費の配分について報告があつた。また，岡倉副会長から広報委員会報告があり，その中で学術会議の広報活動を強化する一環として報道機関解説委員等との懇談会を開いたことが述べられた。次いで勧告小委員会報告，ＵＮＣＳＴＤ小委員会報告が行われた。

引き続いて部会報告に移り，各部長から新設研連に対する部会意見等についての補足説明があつた。また研究費，国際学術交流及び資源・エネルギー問題の各臨時委員会報告があつた。

午後の議事は第１１期活動計画委員会報告から始められた。会長の概括説明の後，要綱，課題及び研連各分科会について各委員長から補足説明があつた。法規分科会は本総会への提案に代えて，諸問題に関する分科会の見解を報告書として提出したが，これについて三宅義夫委員長から詳細な説明があつた。この報告書については，今後改革検討小委員会等が引き継ぎ，これに基づく方策等を検討することを確認した。

続いて「活動要綱」の審議に入つた。池田末利・要綱分科会委員長から前文，活動の基本姿勢，重点目標，及び審議・運営の基本的態度の４項目について要点の説明があつた後質疑に入つた。種々の観点から会員の意見が述べられたが，審議・運営の基本的態度に論議が集中した。今期における勧告等のあり方，政府及び国会との対応について原案に盛られた考え方が質された。活発な討議の後，会長から原案の文言のうち必要個所は運営審議会で修正する条件で採決に入りたいとの提案があり，採決の結果賛成多数で「活動要綱」が採択され第１日目の議事を終えた。

総会第２日目の議事は「課題及び各種委員会」の審議から始められた。渡辺洋三・課題分科会委員長から課題と要綱との対応並びに各種委員会の運営及び任務・構成に関する特記事項の説明があり，質疑に入つた。本提案は具体的な活動内容を示しているだけに，多面的な論議が行われた。特記事項に関しては，１）委員会の審議を期中に完結しようとする今期の基本方針とそれを受けた委員会運営に関する表現，及び２）今期新設された資料担当委員の任務と性格について議論が集中した。特に２）については修正案が提案され，賛否ほぼ同数となつたが，これについて提案者が別途原案を修正し，了承された。ここで一旦常置委員会関係を部分採決し，賛成多数を得て午前の審議を終えた。

午後の審議では特別委員会関係に入つたが，特に研究公務員特例法の取扱いについて２～３の会員から意見開陳があつた。この問題は前期に集中審議を行い，また，関係者の要請も強いが，問題を前進させる現実的な方途は多々あり，慎重に対処すべきだとの趣旨であつた。ここで特別委員会関係を部分採決し，賛成多数を得た。次いで運営審議会付置小委員会の審議に入り，部分採決して賛成多数を得た後，本提案全体について採決を行いほぼ満場一致で可決された。

続いて「研連の組織・運営」の審議に入つた。今道友則・研連分科会委員長から詳細な説明があり，質疑応答の後採決に入り，賛成多数で本提案を採択し，総会２日目の議事を終えた。

午後３時からは各部会が開かれ，各種委員会委員の選出が行われた。

第３日目には，午前１０時から午後３時にかけて各常置委員会，特別委員会等の初会合が行われ，委員長・幹事の選出並びに活動方針の審議が行われた。

午後３時から総会が開かれ，前日審議された諸提案の一部文書修正の結果が報告された。

また，次の総会を１０月２５日（水）～２７日（金）の３日間とすることを決めた。最後に，沖縄県在住の科学者を代表して田港朝昭氏から本総会への招へいに対する謝辞と今後の協力要請をこめた挨拶があり，総会を終了した。

なお，今総会の出席率は第１日目～第３日目まで，それぞれ８７・６％，９０・５％，８１・４％であつた。